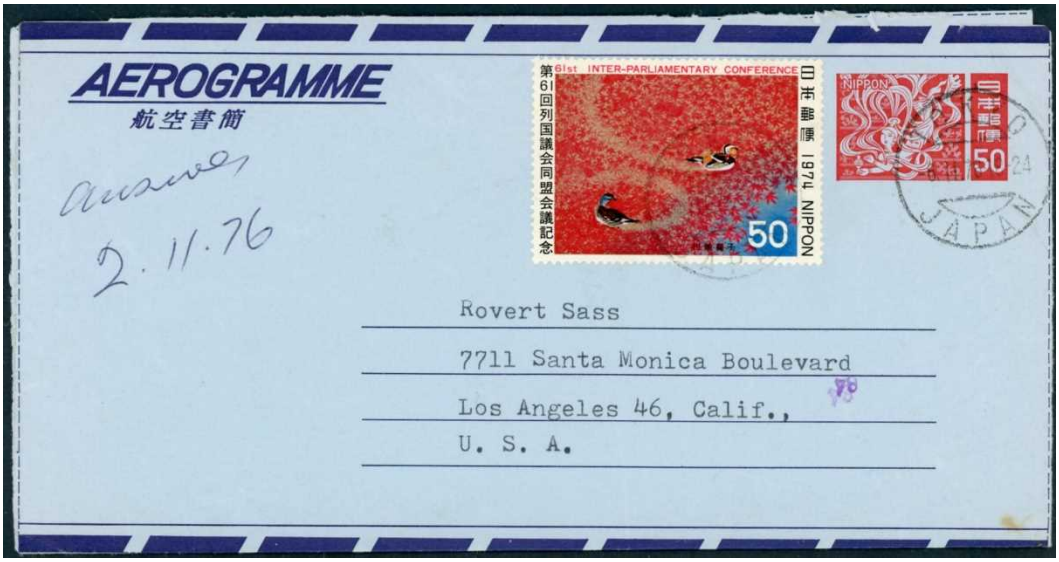
（２月例会「コレクション紹介」より）

50 円飛天航空書簡の料金改訂後使用

永吉 秀夫

会報 314 号(昨年 12 月号)では、最後の料金期間である 90 円航空書簡の実逓便をご覧に入れましたが、この航空書簡の料金は 1949 年の新設以来、38 円→62 円→50 円→45 円→50 円→100 円→120 円→110 円→80 円→90 円と変遷しました。他の郵便料金と違い、「値下げ」が 4 回も含まれているのが目を引きます。

5 回の「値上げ」のうち、1976 年 1 月 25 日実施の 50 円→100 円に際して旧料金の航空書簡に 50 円切手を貼って使用した実逓便を、ご覧に入れましょう。その 50 円切手としては、1974 年発行の「第 61 回列国議会同盟会議 50 円」を使用しています。消印の日付は 1976 年 2 月 6 日、料金改訂後 13 日目の使用です。



航空書簡(料金 100 円：旧 50 円航空書簡に 50 円加貼)　　TOKYO　1976. 2. 6 → 米国

このような料金引き上げに伴う旧航空書簡使用は、毎回存在するのですが、この 1976 年料金改訂時には特別な事情があります。旧料金の航空書簡として使用できたのが、料金改訂のわずか 2 ヶ月前に発行された「50 円飛天新様式」(日専 AR22)のみだった点です。UPU の規定改正によって、AR22 より前の様式(縦横 4 つ折り)の航空書簡が、1976 年 1 月 1 日以降使用禁止となったためです。上の航空書簡も、台はもちろん AR22 です。折り方が横 3 つ折りとなり、サイズが従来と比べて横長になっています。

余談ですが、上記のようにこの様式変更が料金改訂の直前に行われたため、新様式航空書簡の第 1 号となった AR22 が切手無加貼で使用されたのは、1975. 12. 1～76. 1. 24 の 55 日間のみです。通信文のない郵趣家作成のフィラテリックメールは結構ありますが、適切な通信文の書かれた実逓使用便はお宝級です。私も当然所持していません。フィラテリックメールで我慢しています。

そもそも AR22 の現役期間がわずかなので、それ自体が郵趣家以外の一般人にはほとんど利用されていません。50 円加貼便でも一般人の使用したものは貴重です。紹介品は郵趣家の使用で、内側には収集に関する通信文が書かれています(それでも通信文があるだけマシ)。